

平成29年度 第1回 国東市総合教育会議 議事録

期 日：平成29年6月27日（火）午前9時開会
場 所：くにさき総合文化センター（アストくにさき）3階会議室
委 員：出席6名
市長・・・・・・・・・・・・・・・・三 河 明 史
教育委員長・・・・・・・・・・高山 信 哉
教育委員長職務代理・・・・・・・・吉 武 耕一朗
教育委員・・・・・・・・・・引 地 敏 之
教育委員・・・・・・・・・・古 城 芙美枝
教育長・・・・・・・・・・加 藤 正 和

事務局：総務課長・・・・・・・・吉 水 良 仲
総務課秘書広聴係長・・・・・・・・佐 藤 克 典

関連職員：教育次長兼教育総務課長・・・・・・・・橋 義 和
学校教育課長・・・・・・・・畑 野 章
文化財課長・・・・・・・・吉 田 隆 一
社会教育課長・・・・・・・・福 田 雅 樹
給食センター所長・・・・・・・・小 田 善 孝
図書館長・・・・・・・・田 口 哲 郎

○ 総務課長が開会を宣言し、市長があいさつ。

○ 総務課長が、「運営規程第6条第1項」の規定により市長が議長となることを宣言。

（三河市長）

それでは、協議事項1の「児童・生徒の学力・体力の向上について」を事務局から説明して下さい。

○ 学校教育課長から、生徒指導の部分も学力・体力に関連してくるため、併せて現状・課題と取組について報告がされた。

（三河市長）

まず、学力について学校教育課長からの説明がありましたが、質問・意見等がございますか。

色々な調査がありますが、多すぎるのではないのでしょうか。

(学校教育課長)

生徒指導のためなどに、教師の経験や勘で「何となく」と感じていたものを、数値化ならびに分析することによって、はっきりとあからさまにし、見定めるために調査を行っています。

(引地教育委員)

指導力の低い教員によって、学力も左右されると聞きます。

低学年の段階での指導が大きく影響すると思いますが、もちろん子どもたちの個性によって差が出ると思います。

そういった状況を改善するために、様々な加配の教員が活かされているのですか。

(学校教育課長)

やはり小学校低学年の段階で、生活や学習の基本を身につけ、学年が上がるにつれて学習の内容については増えていくので、その中で力をつけていくことになりますが、確かに、指導が十分にいきわたらない教師もいるのは現実です。

そこに関しては、指導主事が指導を行ったり、各種の加配教員が関わる場合もあります。

また、委員ご指摘のとおり、子どもたち自身に関わることもあります。

発達障がいと思われる子どもたちも増えていることもあります。同一クラスに複数名、中には40人学級で4～5人いたり、7～8人いる場合もあります。

そういった時に対応できない教師が何人か見受けられる場合もありますが、その対応が難しいと考えています。

(引地教育委員)

学力調査の結果が数値的に下がっているようですが、先生方の授業力というのは、実際に互見授業など色々な取組みを行っているから、上がっていると思うのですが、数字は下がっているのが事実。

有名な塾の動画などを活用しながら、魅力のある、生徒が聞きたくなる授業を行う力を先生方が身に付ける様な指導は出来ませんか。

(学校教育課長)

生徒に学力を付けるのは、学校での授業だと思っていますので、教師の授業力を付けるのが最大の取り組みだと思っています。

塾のみならず、県教委のホームページでも県下の優れた教師（国東の教師も含まれる）の授業を最初から最後まで45分間見られる各教科の動画が沢山あります。

一番は日常的に、校長や教頭の授業観察と指導、毎週水曜日に行っている校内研究会で教師が切磋琢磨しなければならないと思っています。

特に小学校ではそれが出来ると考えています。

中学校では、その教科の教員が学校に一人しかいないという状況が多くある為、学級づくりや生徒への対応というベースの部分は共通であります。教科となると専門性があるため、教科研修協議会を一昨年から立ち上げ、市内の教員で各教科の指導に対して共通で責任を持とうということで取組みを始めています。

(引地教育委員)

学期に1回位は行うのでしょうか。

(学校教育課長)

年間4回です。

教科ごとに教員が集まり、実践の交流や若い教員が先輩に指導を受けています。また、中間・期末試験の問題をお互いに持ち寄り交流をしています。

(高山教育委員長)

市内中学校の教職員の年齢構成をみると、小学校も多分同様だと思いますが、40歳代後半から上の年齢の教員が多いということですから、一人一人の教師がその年齢で大きく変わるというのはなかなか難しいと思います。

この状況は、しばらく続くのでしょうか。

小学校も中学校も殆どが小規模な学校ですから、学力の低い児童・生徒が複数名いた場合に、平均点に大きく関係することは理解しています。

武蔵中学校は、生徒指導の観点からも、学校内の運用で、一つのクラスを二つに分けて授業を実施しています。

小学校によっては一クラス40人のところもありますが、そのクラスに特別支援学級の生徒が4人、発達障がいがあり支援の必要な生徒もいる状況があります。

小学校の段階でも難しいとは思いますが、武蔵中学校のような工夫は出来ないでしょうか。

そういったクラスを担当が一人で見るとするのは、ものすごい負担だと思います。

(学校教育課長)

学級経営がうまく行っていない学級の問題は、まさにそういった状況によります。

発達障がいと思われる生徒が、市内全域で91名報告されています。

1, 714名の内、約5%に支援が必要だと現場からは言われています。

特別支援教育支援員は28名配置していますが、全ての困りのある生徒に対応することは出来ません。

高山教育委員長の提案を小学校の現場で行うことは、難しいと思います。

中学校であれば、学校規模によっては可能となると考えます。

武蔵中学校では学習支援教員の配置で少人数指導が出来ている部分もあります。

小学校の、複式学級に学習支援教員を配置することで、少人数指導も行えている状況もございます。

(高山教育委員長)

高校でも制度としては認められていなくても、学校の取組みとして2人担任制をとっている所もあります。

臨時講師が一人配置される形ではありますが、男女を別にし、個別の生徒の対応が出来るようにしています。生徒数が多いクラスで何らかの工夫が出来たらよいと思います。

(学校教育課長)

市内では、38名のクラスに、教室を飛び出す生徒や不登校の生徒も含め困りのある生徒が7名ほど在籍し、5名の職員が関わっている例もあります。

(古城教育委員)

私たちは、発達障がいのある子どもさんの為のアドバイスをすることで、幼稚園・保育所すべてに訪れていますが、相談件数がすごく増えてきています。

今後も増えるのではないかと考えています。

ここをどういうふうに対応して行くかということが、将来的に不登校の生徒や引きこもりの大人を減らすことに繋がっていくと思いますので、学力・成績を上げることも大切なことですが、困りのある子どもの対応が市にとって大変重要になってくると思います。

特別支援教育支援員の方々に対する発達障がいについての研修状況はどうなっていますか。

(学校教育課長)

年に3回行っています。年度当初の春休みに1回目、夏休みに2回目、2学期中に3回目、十分とは言えませんが、3回の研修を毎年行っています。

(三河市長)

発達障がいというのは昔からあったのでしょうか。

(学校教育課長)

あったとは思いますが、最近はその数・割合が増えてきていると思われます。

(古城教育委員)

ゲームなどの影響もあるのではないのでしょうか。

子どもが一人でゲームをする、人と接触して成長していくというのではなく、SNSの影響で人付き合いが苦手な人が増えているというのもあるのではないのでしょうか。

発達障がいというのはその人によって、味覚や聴覚、視覚など色々な感覚に困りがあり、その困りも様々あります。

環境調整がとても重要なことになりますが、そういった研修が出来ているのでしょうか。

(学校教育課長)

研修には専門家を招へいし対応しています。

発達障がいの種類には様々ある為、その全てに対応することは出来ていませんが、色々な事案の対処法について研修しています。

研修会では、支援員それぞれからも経験を出し合ってもらい、全体で共有するなどの取り組みも行っています。

(古城教育委員)

保護者に対しても発達障がいに関する話をしておくことも必要ではないのでしょうか。

能力がないという訳では無く、発達に偏りがあるということですから、得意な分野で活躍している方も多くいらっしゃいます。

周りが、困りや違いを認めて対応する環境であれば、社会生活は送っていただけます。

(学校教育課長)

その子の特性を早く見極めてあげることが重要と考えています。

一教師では難しいので、専門の医療機関と連携しながら対応している状況です。

(三河市長)

それでは、2番目の議題である義務教育学校創設の取り組みについて事務局から説明してください。

- 教育次長から、平成32年4月の義務教育学校創設に向け、平成29年3月末策定の基本方針に基づき、現在検討されている「国東市義務教育学校の施設整備に向けた基本計画」の内容について説明が行われた。

(三河市長)

只今説明がありましたが、委員の皆さまからご質問やご意見はございませんでしょうか。

(高山教育委員長)

二点ほどあります。

一つは、これからどういう方向になるのか分かりませんが、学校名についてです。

大分県内の小中一貫校等では、それ以前の中学校の名前を付けてない学校、例えば戴星学園などそういう学校も多々あって、新たな基軸を打ち出すのであればそれが望ましいと思いますが、住民感情として合併して国東市となりました。

国東という言葉は高校もまだありますし、様々なところでも残っています。

ただ、国見とか安岐とか武蔵とかいうのは、学校の名前から消えるというのは、地名にも無いわけですから、是非「武蔵」という言葉は、「武蔵〇〇学園」なら良いんですけど、是非残していただいたほうが良いのではないかというふうに思います。

もう一つは、児童・生徒数(クラス)予想がありますが、理想とすれば、本当に「こういう学校に行きたい。」という子どもが集まるということが、望ましい形ですが、例えば保護者の側からすると、今の小学校・中学校で「仲良く仲間が沢山いて」という子どもは、わざわざ学校を移るということは、なかなか考えづらいと思います。

入るとすれば、新入生の段階で、よそから転入してきた方が入るとか、もう1つ入る子どもというのは、今の学校で居場所がちょっとないという子どもが、環境を変えるために入る可能性が高いのではなかろうかと思います。

したがって、事前に他校区からの受け入れを考える際に、そういった子どもが入るという可能性を考えながら、動いて行った方が良いのではないかと思います。

(三河市長)

ただいま教育委員長から二つの意見が出されましたが、どうでしょうか。

校名に「武蔵」を入れたほうが良いのではということと、支援が必要な子どもさんが入る可能性があるので、その体制づくりを考えるべきではないかということでしたが。

(古城教育委員)

当然そういうふうに動くとしたら、そういう子どもが動くのではないかとも思います。

創設後何もないところから、「この学校の生徒たちは、成績が向上しているぞ。」というなんらかの証明が出来る状況になれば、そのことで動く子どもさんも出てくるかとも思いますが、何もない状況の中で、どこからでも動いてよいとなれば、支援の必要な子どもが動くということも考えられます。

(加藤教育長)

実際市内で、不登校の生徒が環境を変えるために校区外就学している例はいくつかあります。

校区外就学を認める理由・条件にそういったことも考慮することとなっていますし、むしろその方が良い結果となっている例もあります。

今回、義務教育学校が出来たからといって、そういうことを選択肢になるということではなく、これまでもそういった例はある訳ですから、必ずしも義務教育学校をめがけていくということには、ならないかもしれないし、なる可能性もあります。

このことは、義務教育学校がどうこうではなくて、常に学校として考えていなければならないことだと思います。

(吉武教育委員長職務代理)

義務教育学校では、基本的に9年間を見通して教育できるので、学習面でも力を付けさせるという謳い文句で創設し、市内だったらどこからでも良いです、ということで基本計画は進んでいるはずなので、「9年間の教育をきっちりやりますよ。」という所をクローズアップして、市民の方にPRするようなものをどんどん作っていく必要があると思います。

基本的な考え方として、最終的には各旧町に義務教育学校的なものが出来ていくという方向で、「市としてはキッチリ教育していきますよ。」とPRもしていく必要があると思います。

(三河市長)

旧町ごとに出来るかは、現時点ではわかりませんが。

(吉武教育委員長代理)

いずれはそうならざるを得ないでしょう。

今の人数的な問題とかを考えると。特に国見の方は。

(引地教育委員)

義務教育学校ではなくて小中一貫校で別だという感じでしょうけども。

(三河市長)

小中一貫校とは今回はもうちょっと違う考え方です、わざわざ建物を建てて一緒のところにとただ統合すればよいという考え方ではない訳ですから。

(吉武教育委員長職務代理)

これが成功するように、要するに、「9年間一貫教育で教育の質を上げますよ。」といった所をもっとアピールすべきだと思います。

(三河市長)

うまくいけば、他のところからも要望が出るかもしれないとは思っています。

(高山教育委員長)

あくまで可能性の話ですから、

(三河市長)

学校名については、皆さんどうお考えになりますか。

(引地教育委員)

地元感情としては、そうだろうなとも思いますが、私はこだわりません。

(古城教育委員)

最近、郷土愛というものが皆さんのなかに敏感に出て来ていると感じます。

しかし、将来的にもずっとそうなのかというと、そうでもないのかなとも思います。

(教育次長)

6月5日の議会全員協議会においても、吉田議員から「是非校名には『武蔵』を残してほしい。」という意見も出されました。

しかし、今回創設する義務教育学校は、国東市の学校であって武蔵町の学校ではありません。ですから「武蔵」という名前が残る可能性は低いと思います。と回答しました。

(三河市長)

そういった意見は多く出されるでしょうね。

(教育長)

基本的には国東市を代表するといったスタンスで校名を考えますので、「武蔵」が入らない可能性が多いのではないかと考えています。

「愛校心」や「おらが学校」というのを、これから1ページを創っていくという立場に立てば、武蔵の人の気持ちはもちろんわかりますが、それが〇〇学園となったとしても、武蔵地域にあることは間違いない訳ですから、地域の人たちには、武蔵にある学校、国東を代表する学校として愛着を持って頂けるような校名を考えられれば良いなと個人的には思っています。

(三河市長)

合併時に国東市と名前を決める時に、県職員の時代に聞いた話しではありますが、

なかなか決まらず、ひらがな表記にするという案も出たらしいです。しかし、漢字の国東には、意味があるということで最後はこれに落ち着いたようです。

現在は「国東市武蔵町」本来ありえない話である訳で、大分市の場合は「大分市佐賀関」で町は入っていません。やはり地名というのは地元の方々から見れば、それだけ愛着があるということはよく分かりました。

今回の場合は、9年制の学校を創るということで、理想の学校を創るということで教育長とも話をしています。

武蔵という地名を入れないことに反発があることは、予想はしています。

(古城教育委員)

私は個人的には、「武蔵」という言葉が入らなくても良いと考えています。

良い学校にしたいという思いは、義務教育学校に全部するかどうかは別として、良い学校にするということは、国東市全体がそういう思いであるとおもいます。

子どもたちみんなが自己肯定感「自分はとても素晴らしい人間」と思えるような生徒に育つような学校にしていってほしい、その方が、成績が上がっていくということが、色々な所で行っていると聞きます。ですから、全体で考えて対策を打っていくということをしなないと、武蔵だけ対策を打つというのは難しいと思います。

(加藤教育長)

教育委員さん方からも、これがという校名の候補があったら教えてください。
なかなか、いざ考えるととなると難しいものです。

(引地教育委員)

視察に行った宗像市の小中一貫校で、教室内に生徒がクールダウンするための小部屋がありましたが、ああいうものを設置する予定はあるのでしょうか。

(学校教育課長)

特別支援学級の教室を各階に余剰教室があるので考えています。

(引地教育委員)

あれを見た時に非常に素晴らしいと思いました。現場の先生方も「あれがあって助かります。」「教室内にあるのが良い。」と言っていました。

(学校教育課長)

あそこはゼロからの建設でしたが、今回はゼロから立てるのではなく、現在の武蔵中学校を有効利用しながら建設する予定ですので、現在の教室をそういう割り当てにしながら、有効活用したいと考えています。

(引地教育委員)

障がいがあった場合に、狭い場所が良いという方もいるということなので、そういうスペースもあったほうが良いのかなと考えました。

(三河市長)

次に3番目の「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術文化祭おおいた大会」の取り組みについて事務局から説明をお願いします。

- 社会教育課長から、平成30年に大分県で開催される国民文化祭並びに全国障害者芸術文化祭に関連した、国東市におけるプレイベント等について説明。

(三河市長)

ただいま説明がございましたけれども、教育委員の皆さんから、ご質問、ご意見等はございませんか。

来年の後半になる訳ですけども、プレイベントに取り組んでいる状況にあります。

国見歌舞伎や吉弘楽、修正鬼会などは入らないのですか。

(社会教育課長)

先日、国見歌舞伎の方からも、国民文化祭に企画提案書を出したいとの相談を受けています、中身はまだ具体的になっていませんが、近日中にそういった提案書が出てくるものと思われれます。

(三河市長)

まだ追加される可能性があるということですね。

(社会教育課長)

実行委員会には、各文化団体の代表者の方も委員として入っていますので、7月に開催予定の第2回実行委員会の折には、お話しをさせていただきたいと思っています。

(加藤教育長)

平成30年の10月6日から始まるわけですが、その日にメインの行事をするということですか。

(社会教育課長)

全体的なものというのは、大分市の「いいちこグランシアタ」において、全体の総合開会式と閉会式フィナーレが行われます。

(加藤教育長)

国東市において、独自に国東市の全大会というのはないのですか。

(社会教育課長)

現時点ではそこまで考えてはおりません。

(加藤教育長)

そういうものがあれば、市長が言われた団体等も紹介できるという考え方もありますね。

(社会教育課長)

市で計画すれば、市単独で実施し、市内の色々な文化団体を紹介することもできますし、そういった内容も実行委員会の中で話していきたいと思います。

(三河市長)

もう一つが、「六郷満山開山1300年記念事業の取り組みについて」です。説明をお願いします。

○ 文化財課長から、六郷満山開山1300年記念事業に関する各種計画を説明。

(三河市長)

訪れた方に、国東市にお金を落としてもらいたいと思いますが、これといった土産物が無いので、課題が沢山あるのですけれども。

かなりたくさんバスも入って来るようになりましたので、峯道ロングトレイルとか、かなり増えてまいりました。

パンフレットの説明をしてください。

(文化財課長)

これはライトアップイベントを特集したパンフレットとなっています。主にこのパンフレットを配布するのは、旅行会社で、この期間に観光バスを運行してほしい、ナイトツアーを計画してほしいということでございます。

(三河市長)

ご質問等はございませんか。

それでは時間が余りましたので、最初から含めて全体を通して、ご意見等がありましたらお願いします。

(古城教育委員)

非認知能力がとても大切ということが言われていて、そののところをきちんと身に着けさせるような、生徒が自分に自信を持って生活が出来るようにする学校づくりが出来ると良いのではないかというふうに思います。そうすれば成績も上がっていくと考えています。

(三河市長)

非認知能力が上がれば、学力も向上するということですね。

(古城教育委員)

そのことと併せて、体をしっかりと動かしておくこと、小さなうちから身体能力を上げていくことというのが、学校入学後、神経がしっかり発達してくるわけですから、勉強にも役立つということなので、先生方が真剣に頑張られて、そこを考えていくというのはとても大切なことですが、それ以前のことをきちんと、小学校入学前の準備を考える、そういう仕掛けをきちんと作っておくというのが、成績を上げるために重要なことと考えます。

(三河市長)

今は昔と違って、野球やサッカーのチームなどが沢山あって、結構参加されている児童も多いようにありますが、どうして体力がないという結果が出ているのでしょうか。ちゃんとスポーツはしているようにありますけど。

(学校教育課長)

体力テストの項目が多岐にわたっていますので、例えば野球等では、一部の運動に使う部分が偏ることがあるのではないのでしょうか。

長座体前屈のような柔軟性については、野球の中等では意識的にストレッチ等やらせなければ、普通の練習の中では培われてこない機能と思われれます。

昔ながらの、自然の中で遊ぶとかいう中では養われていくと考えますが、そういう部分が先ほども出ましたがゲームなどに奪われて、無くなってきている中で、多機能的な動きが無いので、色んな分野に分かれた体力テストの中では落ちが出てくると考えられます。

一昨年は良かった長座体前屈が、昨年は全学年で良くない結果となったため、体育の授業の基礎トレーニングの中に織り込むような取組や1校1実践の中でそれぞれの学校での課題の部分、例えば瞬発力の向上についての取り組みを指導して、各校で考えてもらうようにしています。

自己肯定感についても、何かしらのことをやって、大人が一方向的にすごいと褒めるのではなく、子どもたち自分自身の思いと一致した時が、本当に「僕にも私にもでき

る。」という思いにさせるのですから、成功体験を得るように大人が仕組んでいかなければ出来ないと思います。

(引地教育委員)

古城委員が言われるように成功体験はもちろん大切であると思います。

それと併せて、ここは「仏の里くにさき」ですから、仏教がとても良いものと思っています。

ですから、お寺さんの和尚さんとか地元にいる訳ですから、そういった方々を学期に1回でも良いから来てもらって、仏さんのお話を聞かせるといったことも、気づくことがある場面もあると思うので、取り組めるようにすることも良いと思いますが。

(高山教育委員長)

公教育の中で宗教に偏る話は入れられないのではないのでしょうか。

(学校教育課長)

宗教そのものではなく、生き方であるとかそういった講演であれば問題はありませんので、お寺の人だけではなくて地域の色々な方々にお話しを聞くということは出来るので、そういった中に入れて行くというのは十分考えられます。

新設の義務教育学校のカリキュラムの中にも、そういったことは入れて行きたいと考えています。

キャリア教育の中では、現在頑張っている地域の若い方を私が担任をしていた時には来ていただいてお話しをしていただきました。いろんな分野で出来るのではないかと思います。

(三河市長)

学力向上のところで、目標を全ての教科で県平均以上としているようでしたが、なぜ平均以上としているのですか。

大分県で上位3位以内を目標とかにすれば良いのではないですか。

(学校教育課長)

全国レベルでと考えた時には、県全体の結果が低い時期もありましたので、大分県の中で3位であっても、全国から見れば低い場合があります。

従いまして、全国平均を上回るという位置付けにしています。

(三河市長)

全国平均の方が大分県の上位3位の平均よりも上ということがあるのですか。

(学校教育課長)

それはあります。

上位3位といたしましても教科ごとに、良い・悪いということもありますので、一概に県内での順位はつけづらい状況です。

(古城教育委員)

国東市には学習塾が少ないと思われ、都市部には多いようにあるのですが、国東市ではハンディがあるのではないかと思うのですが。

(学校教育課長)

教育委員会としては、授業で負けたくないという気持ちがありますので、授業の中や、学校が独自で取り組んでいる施策の中で責任を持って子どもたちに力を付けたいというふうに考えていますので、学習塾のことについては、考えていません。

東京へ視察に行きましたが、都会の方では不登校になって学校に行かなくても塾に行けば学力が付き大学へ入れるということを言っていました。

そんなことは到底、国東では難しいと思います。だとすれば、学校教育の中で責任を持ちたいと思います。

高校生に関しては環境に恵まれていないということで市も助成しながら取り組みを考えている所ですが、小中学校は授業の中でどうにか力を付けたいと思っています。

(古城教育委員)

先生方が頑張りすぎるというのもすごく大変だろうと思うのと、学びの教室などとの連携も考えて、そちらにも光が当たるようにと思いますが。

(学校教育課長)

3地区で文部大臣表彰も受けているように、すでに脚光を浴びていると思うのですが、その難しさとして、学びの教室も学び塾も小中で地域の方の協力を頂いて実施しているのですが、全員入会ではなくて希望制なので、課題があつて学力的に厳しい子どもの補習をすると一倍良いのですけれども、そういう子どもたちに先生方からも声かけをしてもらっているのですが、保護者などにもPTAの際に、なかなか来てほしい子どもが集まらないといったそういう部分の難しさがあります。

(古城教育委員)

今回の義務教育学校においては、放課後児童クラブを校内に設置して150人程度の受け入れ予想と聞いていますが、こことはどのような関係作りとなるのでしょうか。

(学校教育課長)

放課後児童クラブというのは、あくまでも帰宅しても家に保護者がいない児童の見守りが基本となります。

ですが、放課後児童クラブごとに、まず宿題をさせるなど、ルールを決めていただいていますので、ここは福祉課の管轄になりますけども、学習指導ということは念頭に置いていません。子どもの見守りというのが一番基本の事業であると思っています。

(古城教育委員)

子どもさんが、例えば算数が理解できなくなっている時に、どのタイミングでつまずいて理解できなくなってしまったのかというのを、30人の生徒がいる教室の中で先生が一人一人の子どもさんに対してチェックし、つまずきを見つけて指導できるような状況であるのかどうなのか、そういった個別の関わりが必要で、そこをクリアできたら上がっていくと思うのですが。

(学校教育課長)

結論だけ言えば、そこは十分にできていませんが、色々な取組みを行っていて、たとえば、夏休みも4年生以上は、5日間は学校に登校し、個別指導が出来るステップアップ講座というのも行っています。

通常の授業の中で、毎回の取組みを行っていく中で、そういう指導にはなかなかならない状況です。

朝の時間、ショートタイムの中で、個に応じたプリントを配布したり、学びの教室の時に連携して、子どもたちがつまずいているところを指導してもらったり、色々な場面で対応はしていますが、授業の中でというのは、なかなか難しい状況です。

ただ、支援が必要な子どもには、そばに支援員がついていますので、必要に応じて声かけをしながら、ということになります。

(古城教育委員)

そこら辺のところ的大事になって来ると思います。積み重ねていって偏差値が50以上、授業が理解できる子どもになっていくというのが大切なのだと思います。

(学校教育課長)

学力においては、国東市もそこに目をあてていて、偏差値50、全国レベルを目標にしているのですけれども、最終的には個に帰らなければいけないというのは考えていて、個別の対応を各学校において取り組んでくださいとお願いしています。

そこをやらなければ、平均は上がらないので、個別の対応をお願いしているところです。

教育委員会としては、学校ごとの数字でお話しをしていくわけですが、学校として

は個人の数字を持っていますので、個に応じた指導をお願いしている訳です。

しかしなかなか難しい現実もあり、丁寧に継続的に指導して行くしかないと思います。

(古城教育委員)

先生方は、そののところも見なければいけないし、発達障がい系の子どもさんたちも見ていかなければならないので、大変だろうなと思います。

(学校教育課長)

家庭との連携が非常に難しくなっています。

家庭の中で落ち着いて勉強できない状況にある家庭も結構ありますので、子どもの生活環境の難しさがあります。

(吉武教育委員長職務代理)

教員の方の長時間勤務が問題になっていますが、絶対的な時間や人員数が教育に対して十分なのかどうかの検証は、校長先生が見る以外ないのか、子どもに対する教育の時間が取れているのかとか、加配とかあるでしょうが対応出来ているのだろうかと考えますが。

(学校教育課長)

現在、6月中の1か月間を対象として、労働時間の実態調査とアンケート調査を行っている最中です。

8月にはそれを分析し、検討委員会を開く予定としています。

加配教員については、県から20数名、市独自で8名を、他の市町村には無い制度で配置していただいています。

しかし、現場の先生方が満足するだけの教員数には達していないと思います。

91人いるといわれている発達障がい子どもたちすべてに対応するまでには当然ありません。

緊急的に必要な場合は、年度の途中でも配置してもらっている現状もあります。

(吉武教委員長職務代理)

出来るだけ先生たちの授業の時間を確保するためにも、予算を要することですが教育委員会としても考えなければならないのではないのでしょうか。

(加藤教育長)

国東市の人員配置は、他市町村に比べ手厚いと思います。

だからといって充分かといえば、それは違いますが、不十分といえば不十分。

教員5人が10人に増えたからといって子どもたちが良くなるかといえば、これもまた違うんです。つまり教員の質なんです。

学力を向上させるためには教員が力を付けることが一番重要です。

今の先生方が駄目だという訳ではないんです。

私から見ると、現場の先生方にはもう一息頑張ってもらいたいと考えています。

教育委員会の指導主事が指導するにしても年に2回の授業観察と指導で急に力を上げていくのは不可能です。

そのために管理職である校長・教頭の指導力強化を強くお願いし、組織的に先生方を指導するようお願いしています

放課後の時間、子どもたち同士で遊ぶとか、家の手伝いをするとか、ボランティアをするとか、そういう力が成長してからのその子どもの、大げさかもしれませんが人生を変えるほどの非常に重要なことだと思っています。

国東に塾が無いから塾を創って子どもたちを通わせたとしても、学力は上がるかもしれないけれども、コミュニケーションや人間力についてはどうなのでしょう。

教育の難しさだと思います。

塾に行ったから行かなかったからどうこういうのは違うと思います。

子どもに一番接している教員が、1日のうち6時間をどうしていくのが基本にあると思います。

しかし、教員だけの力ではどうしようもない時代ですから、親がどう考えてどう一緒にしてくれるかが勝負だと思います。

いろいろ難しい問題はある訳ですけども、国東市には、非常にバックアップをいただいておりますし、有難いなと思っています。

それに恥じない指導を教員に努力をしてほしいなどと話しをしています。

- 総務課長が閉会宣言
(午前11時5分終了)